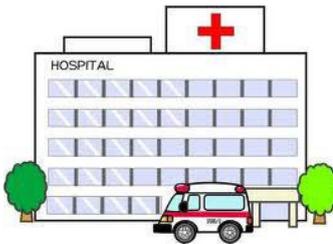




安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう

病院事業の推進に向け新たな取組スタート (p2.3で病院事業を特集)

今年4月、市は市立病院事業及び地域医療連携担当の役職である**特命監事務取扱**を置きました。



特命監を中心に今後どのようにすれば良好に病院を運営できるかを検討し、市としての**新たな取組**を始めました。

取組み: 病院の運営は年度ごとの事業計画に基づいて行われます。病院側(指定管理者)は3月末に次年度の事業計画書を提出する一方、事業報告書は財務処理の関係で5月末になります。これでは前年度の事業結果を事業計画に反映できません。そこで、市は前年度と当該年度の上半期の実績を踏まえて病院事業を評価し、次年度計画を立て、加えて、指定管理者の事務負担を軽減し、市の評価や市民の意見を反映しやすい工夫もしたいとしています。

6月議会、3つのテーマで一般質問

① 集団健診の導入から3年を経過した乳幼児健康診査、導入後の初めての検証を要請

1歳6か月児の健診結果集計を集団健診導入前の3年間(個別健診)と導入後の3年間で比較。

例えば、問題ありと判定された子どもの数は

精神発達面 18人以下 ⇒ 3ケタに増加

言語発達面 32人以下 ⇒ 3ケタに増加

保育 0~1人 ⇒ 72人~150人に増加。

このような増加に担当課は健診後のフォローなど非常に熱心に対応していました。

伊木: 精神発達面や言語発達面については細かい点まで捉えすぎて保護者に必要以上の不安を与えている可能性、担当職員が必要以上の対応に追われている可能性、保育についてはもっと早い時期に集団健診を取り入れることで保護者支援に繋がる可能性があるのではないかと専門家も交え、判定の妥当性や精度の管理について検証するよう要請しました。

①の背景: 母子保健法では3回(乳児と、1歳6か月から2歳までの幼児と、3歳児)の健診が義務付けられています。さらに市町村で追加の健診を実施。生駒市では平成9年から6回の個別健診を実施してきました。他市では集団健診を中心に実施しているところや、3回のみのところもありました。昨今、保育に不安を感じる保護者も増え、多職種による集団健診や相談体制の重要性が指摘されてきました。伊木は平成22年6月議会で集団健診の導入検討を提案。市は平成23年度に「生駒市乳幼児健康診査検討委員会」を設置し同委員会の「生駒市における乳幼児健康診査のあり方に関する提言」を下に、実施体制を見直し、6回の個別健診のうち、1歳6か月児については集団健診に切り替えました。

② 市立病院の設置者としての市の役割について

(p3をご覧ください)

③ 熊本地震への対応について (議会報 8月号に掲載)

市や市立病院の職員の活動を本市での防災施策に活かすために、広報いこまちでの特集記事や親子や市民向けの支援活動報告会の開催を要請



熊本地震支援 火の君文化センターにて診療

しました。

③に関連: 市立病院からは医師1名、薬剤師1名、事務職員2名が現地に駆けつけ、徳洲会災害医療支援チーム(TMAT)の一員として被災地の医療活動に加わりました(右の写真)。生駒での災害時にもTMATの支援が得られることを実感しました。大地震時でも揺れをゆるやかにし、建物の損壊等を防ぐ免震構造を備えた生駒市立病院。平成28年4月1日に市立病院 災害対策マニュアル案を作成しました。ハード・ソフトの両面で災害に対応できる病院実現に向けた取組に期待します。



特集 生駒市立病院

開院から1年、市立病院の医療は？

★ 患者数

平成27年度の事業計画との比較

各月延外来患者数の年間平均達成率 50%

各月延入院患者数の年間平均達成率 41%

開院から6月末までの救急搬送患者数

生駒市消防本部 864人

奈良市やその他の消防本部 1003人

開院から6月末までの分娩件数 81件

上記の入院・外来患者数は計画の半分以下にとどまりましたが、1日平均患者数（月平均）は開院当初から右肩上がり増加しています。

★ 診療体制

昨年8月から夕方の外来診療も実施、今年7月から血管外科が追加され、15診療科（当初の病院事業計画では10診療科）と4つの特殊外来での診療も行われています。開院時は非常勤医が対応していた整形外科でも現在、常勤医が診療しています。脳神経外科は現在も非常勤医が診療中です。

医師の確保、患者数などは計画通りではありませんが、これまで市外に搬送されていた多くの市民のみなさんが市立病院で治療を受けることができ、また、奈良県の救急医療にも大きく貢献しています。

開院から1年、市立病院の運営は？

新聞記事等では初年度の経営赤字が大きく扱われていますが、市と指定管理者との協定により、市は経営上の赤字補てんを行わない仕組みになっています。指定管理者は経営上のリスクを抱えながらも、医師等スタッフの充実に努め、市立病院が公立の医療機関であることを踏まえ使命感を持って運営されています。

また、市民対象の医療講演会や医療従事者対象の医療教育プログラムも実施しています。今年6月にはコンサート（p3）も行われました。

市民の力で実現した市立病院！ 市立病院は奈良県国保連合会直営生駒総合病院の開院により不足した医療を充実させるために市が計画。中本市長時代から引き継がれ、小紫市長のもとで昨年開院。この間、紆余曲折がありましたが、病院の設立に欠かせない病床の確保は、市民のみなさんの署名が県を動かして実現しました。

市立病院事業と市議会

平成27年度、市議会では市立病院事業に関連した議案を審議しました。5月臨時議会と9月定例議会で、私は病院事業推進委員会委員に選出されました。平成28年3月定例議会では議会の議決を経ずに市と病院が相談して診療科を追加することができるようにする（規則委任）議案が提案され可決しました。なお、条例に定められた診療科については市と市立病院の裁量で廃止できるものではありません。

3月議会に上程された議案は病院事業推進委員会や医師会の代表はじめ全委員の賛成の下にまとめられた答申に基づき提案されました。医療ニーズに応じてタイムリーに診療科を追加し、医師の採用を決定できれば、地域医療の充実につながります。議会で診療科の追加の可否を諮ってから採用を決めていると医師確保の点からもマイナスであると意見を述べましたが、賛成12、反対11と僅差での可決となりました。議員の判断に大きな不安を覚えました。

医療連携が課題！

良好な医療連携が構築されている地域では多くの診療所は病院の医療連携登録医となっていて、かかりつけ医から病院への紹介がスムーズです。しかし市立病院では登録医は平成28年3月末現在、47施設・58名（市外含む）と少なく、これまで2回市立病院で開催された病院連携談話会への地域医療機関からの参加者も22名、13名と少ない現状です。

地域の診療所や病院はそれぞれ提供する医療（診療科目・専門分野など）が異なります。そのような医療機関が緊密に連携することにより、様々な分野の治療がタイムリーに提供でき、また、たいいていの病気の治療が市外に行かなくても市内で可能になります。さらに地域の医療機関が情報交換を密に行い、合同勉強会や講演会などを行うことにより地域全体の医療の質が向上します。

私は地域医療を安心安全なものにするためには医療連携が欠かせないと考えていて、以前から『かかりつけ医を持ちましょう！』と呼びかけてきました。病院での治療が必要になった時、かかりつけ医を持たれている方が市立病院などへの紹介をかかりつけ医に申し出ることも医療連携の構築につながります。

いまだに多い市外入院！

市の国民健康保険加入者の入院患者のうち、約6割が市外の病院に入院されています(本年1月現在)。市外入院の割合は平成23年度以降、約6割から7割で推移していて、市立病院開院後も市外で入院されている方が多い状況です。

市立病院で治療を受け良くなりましたと声が届く一方、開院を知らない方が居られびっくりしましたという声も届きました。開院後も市内入院の割合があまり増えていないのは、市立病院の診療体制(p4)をご存じでない方が多いからかもしれません。みなさんが市立病院はじめ市内の病院を利用されることを望みます。

市民参加で地域医療を安心安全なものに！

開院から1年、市立病院管理運営協議会が3回開催されました。この協議会は公募市民や自治会関係者などの市民、医療関係者、市、市立病院が同じテーブルに着き、病院の運営などについて話し合う会議です。市長が会長として議事を進行。第2回目の会議から、医師会の代表、病院協会の代表も参加、また、院内のご意見箱に届いた全ての意見と対応が紹介されています。6月23日に開催された第3回協議会では平成27年度の事業報告や平成28年度の事業計画について説明があり、その後、市の担当者から今後の病院事業の進め方(p1に関連記事)が提示され話し合われました。また、市民から救急対応に

関して意見が出て病院側が説明したり、市立病院をみんなで育てていきたいという意見も出ました。

市民や地元の医療関係者が病院の運営状況や医療について質問し、医療に対する希望を述べ、病院や市は運営側の実情を説明。参加者が互いの状況を理解しあい、解決策を探ることができる、全国的にも珍しい協議会です。この協議会は私も参加するNPOが提案し設置されました。より良い病院運営に活かされることを望みます。

また、市民のみなさんの声もより良い病院づくりに必要です。もし、市立病院が提供する医療やケアが期待していたものと違っていたら、相違点を病院にしっかり伝えてください。病院では適切な対応を検討します。病院に期待し、求めていくことで医療従事者も“もっとがんばろう”という気持ちになります。小さな取組を積み重ねていくことで、皆さんの期待に応えられるより良い病院になります。みんなの力で地域の医療を安全で安心なものにしていきましょう！



6/22 クラシックコンサート (市立病院1階ロビーにて開催)

6月議会
一般質問

③ 市立病院の設置者としての市の役割は？

背景: 市立病院は市が設置、指定管理者が運営する自治体病院です。城西大学経営学部の教授で地域医療や自治体病院経営を研究されている伊関友伸氏の著書『地域医療 - 再生への処方箋』(ぎょうせい)には“政治リスク”という言葉が出てきます。設置者である首長や職員が「専門職」への敬意を忘れ「部下」に対する叱咤で接したために医師の大量退職に繋がり病院機能が停止した事例や、議会での発言やビラなどが現場で働く医師たちの心を傷つけていた事例などが紹介されています。医療現場や病院運営に対する無理解が病院を崩壊させるという警笛です。

私はこの1年間、政治リスクを危惧してきました。伊関氏の著書を紹介し、安心安全なまちづくりの要である病院事業の発展を願い、質問と要望をしました。

1: 市立病院の医療等について、周知不足では？

提案 ⇒ 丁寧な周知と共に、周知の不足に起因する病院の医療や事業手法に対する誤解に対処するために、市民の意見を吸い上げる仕組み、例えば病院事業に特化した聞き耳ポストを設置し届いた意見に丁寧に対応してはどうでしょう。

2: 市立病院が良質な医療を提供し、地域医療充実の要としての役割を果たすには医師の確保が重要。そのために市が担う役割は？

提案 ⇒ 『地域医療を良くするために、ぜひ、生駒に来てください！』と、熱意溢れたメッセージを発信し続けることや、指定管理者と共に、または単独でも、大学病院等に出向き、医師派遣を要請するといった熱意が必要と考えます。

医療者の心を動かすのは熱意です。
熱意をもって病院事業を進めて下さい！



《報告 4月～7月》

～ 議会 ～

7/26 厚生消防委員会 調査 スタート

今年度のテーマは『高齢者交通費助成』。26日、担当課から助成事業の変遷や効果などの説明を受けました。なお、私は厚生消防委員会（市民福祉委員会を改名、組織改編に伴い福祉健康部と消防本部を所管）の委員長を務めています。

～ 環境 ～

7/29 第1回ごみ減量市民会議

～ 教育・子育て ～

4/1 南こども園開園

6/20 教育大綱策定

7/9 幼稚園型認定こども園化説明会 (生駒幼稚園)



9月議会で関連条例の提案を予定しています。

7/21 小中一貫校準備会議(第9回)開催

～ 参議院選挙 ～

7/10 生駒市の18, 19歳の投票率は57, 3%。

全国平均の45%を上回り、奈良県下から抽出3市町村(本市、橿原市、王寺町)中、最も高い投票率でした。

将来を担う若い世代の政治・まちづくりへの参加に期待します！

《審議会を紹介》

医療介護連携ネットワーク協議会

住み慣れた地域や家庭で安心して暮らしていくために、市は今年度、同協議会を設置しました。在宅医療推進部会では医療介護の現状や課題を共有する取組、認知症対策部会では認知症に対する医療支援のあり方などが話し合われています。

総合計画推進審議会

今年も6月末から総合計画の進捗状況の検証が行われています。

これらの会議やごみ減量市民会議などの開催案内は市のホームページトップページの市政情報 審議会から見ることができます。



ゆり(自生)
通学路の脇で
今年も花を咲かせました

Dr.Mariko の健康ひとくちコラム **がん細胞を生み出さない為に・・・**

人体はどれくらいの数の細胞からできているかご存知ですか？ 約60兆個とされています。そんな体の細胞からがん細胞が生まれます。なぜがん細胞が生まれるのか？ 原因は細胞の核内の遺伝子の傷です。体には遺伝子の傷を治す機能もあるのですが、傷が治ることなくがん細胞が生まれてしまうことがあります。人体にはがん細胞を攻撃する機能もありますので、がん細胞が生まれたからと言って必ずがんになるとは限りません。しかし、がん細胞など生まれて欲しくないですね。

がん細胞を生み出す身近な原因のひ



とつがたばこです。たばこの煙には遺伝子を傷つける成分が含まれているため、たばこを吸ったり、たばこの煙を吸い続けると、がん細胞が生まれやすくなります。たばこの煙は肺や胃やのどのがんだけでなく、心筋梗塞、おなかの中の赤ちゃんの発育不良など、たくさんの病気の原因になることがわかってきました。たばこを一度吸い始めるとやめるのが難しいので、子どもはだれ一人として喫煙しないようにしたいものです。愛煙家には耳の痛い話かもしれませんが、子どもたちをたばこの煙から守りましょう！

今年から

**いこま国際音楽祭は
開催されません。**

編集後記：これまで6回開催された『いこま国際音楽祭』、市の突然の方針転換で今年から実施できなくなりました。第2回から市・教育委員会・市民実行委員会の共催で開催。私は継続を模索しましたが叶いませんでした。高い音楽性、子どもたちに夢を与える企画、市民との協働事業の発展など、注目しながら見守ってきた私は残念です。これまでご支援頂いた皆さんにも残念な報告となりました。同音楽祭に代わって提案公募による「市民みんなで創る音楽祭」が行われます。10月末から3月までに9つの音楽イベントが開催されます。 まり子

生駒市立病院の診療体制 (HP <https://ikoma.tokushukai.or.jp/> 問い合わせ:電話 72-1111)

診療科 (現在、15診療科)

内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、腎臓泌尿器科、産婦人科、小児科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、血管外科、

* がん治療相談、緩和医療、ペイン(痛み)外来、フットケア外来あり。

診療時間：午前診 月～土 9時～12時
夕診 月～金 17時～19時
脳神経外科・腎臓泌尿器科午後診あり

たけまる号運行中 市立病院玄関前まで行きます! (平日)
生駒駅北口 8:08, 8:49, 9:05, 9:54, 10:05, 11:05 (13分着)
北口⇒ 生駒駅南口 ⇒ 市役所前 ⇒ 病院 (大人運賃 150円)